

2023.9.26

2023~2024年度 国際ロータリー会長
ゴードン・R・マッキナリー

2023~2024年度
国際ロータリーのテーマ



2023-2024・第6号

基本的教育と
識字率向上月間

2023~2024年度
クラブテーマ 「one for all, all for one でロータリーを楽しむ」

[本日の例会] 卓話 地域コミュニティ施設
「桜木コミカ」 柴田 和裕 様

[次回予定] 10/3(火) 会長の日・雑誌の日

・・・例会報告 / 9月19日(火)・・・

■高崎南RCとの合同親睦月見例会 (於: 観音山 慈眼院)



■出席報告 (9月19日)

会員総数	31名
出席計算会員数	31名
当日出席者	21名
会場出席率	67.74%

十三夜

秋はお月見の季節。旧暦八月十五日の中秋の名月は、ことし（令和5年）は現行歴の九月二十九日ですが今年は例年と異なり残暑(?)が厳しい年になっている。

十五夜の一か月後の旧暦十月十三日は、十三夜のお月見である。中秋の名月は中国伝来の風習だが十三夜は日本だけのものという、和歌や俳句にもつぎのようなものがある。

からびと なが
唐人はかくとも知らで眺むらんここに名に負ふ長月の影 有功

唐土にも富士あらばけふの月を見よ 素堂

九月が十五夜で十月がなぜ十三夜なのであろうか。『徒然草』では月と星座の関係で説明されているが、これは理屈に合わないところがある。貝原益軒は「天道は盈つるを^みかいて謙に益^ます」という『易経』の言葉に由来するとしている。これは「天は満ちた者を欠き、不足があっても謙遜の態度でいる者に対しては、それを補う」といういみである。とすれば、十三夜の月は、満月を前にして謙虚にふるまっている姿といえる。が、この説もどうもコジツケに感じる。

日本には十三夜の一か月後の旧暦十月十日に十日夜^{とうかんや}がある。中秋の名月が「芋名月」なら、十三夜は「栗名月」で、十日夜は「稲の月見」。もともとお月見は農家の収穫祭であるが、季節とともにお月見の月齢が若くなるのは、寒くなるせいではなかるか。

寒くなると夜おそくまで外にいるわけにはいかない。月の出の時刻は月齢が大きくなるほど遅れるから、夜の早いうちに、空の適当な高さにいる月をおがもうとすれば、どうしても若いお月さまを祭ることになる。

「お月様いくつ 十三七つ まだ年ア若いな」の十三七つは十三夜の七つ時(夕方)のことだという。

十三夜の月なら、七つ時でも空にのぼっている。



気象予報士 倉嶋 厚 著 四季つれづれ辞典より

例会場・事務所／ホテルグランビュー高崎 高崎市柳川町70
TEL 027-310-7722 FAX 027-310-7733
E-mail : takasaki-cent@rid2840.jp
例会 / 毎週火曜日 18時30分